

萩市須佐出身時刻表の父「手塚猛昌」生誕170年記念事業

明治・大正・昭和・平成・令和の時刻表を一堂に

大時刻表展

会期 令和5年10月5日(木)～12月10日(日)

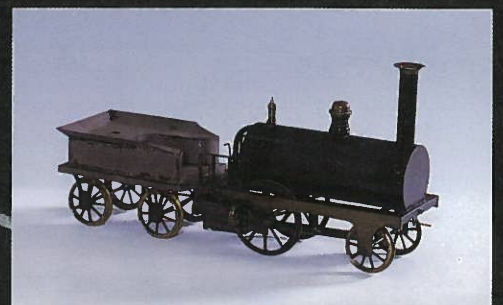
会場 須佐歴史民俗資料館(萩市須佐中津)

開館時間 9時～16時(最終入館)

入館料 大人310円 子ども150円(中学生以下)

同時開催

- 機関士が見た鉄道写真展
- 幕末の鉄道模型「興丸号レプリカ」特別展示



「興丸号レプリカ」(萩博物館所蔵)



新幹線開通時の時刻表



手塚猛昌



日本初の月刊時刻表



てづか たけまさ ■手塚猛昌(1853~1932)

猛昌は、嘉永6年(1853年)長州藩(須佐)の貧しい武士の家の次男として生まれた。向学心に富む猛昌は、明治18年(1885年)33歳の老書生として慶応義塾に入学。卒業後庚寅新誌社を創立し、政治経済雑誌「庚寅新誌」を発刊。明治27年(1894年)恩師福沢諭吉の勧めにより、日本で初めての本格的な月刊時刻表「汽車汽船旅行案内」を発刊した。この時刻表の発行により、交通・運輸のネットワークは格段に拡充し、近代日本発展の一翼を担った。名声を高めた猛昌は、帝国劇場や東京市街鉄道株式会社、横須賀電気瓦斯株式会社、東洋印刷株式会社などの設立に加わり近代日本の礎となる時代に財界人として大活躍しました。また、晩年には次代を担う若者の育成のため、奈古村(現阿武町)出身の西村有作等と共に武蔵高等工学校(後の武蔵工業大学、現東京都市大学)を創立しました。

主な展示内容

■手塚猛昌の生涯と活躍

関東大震災・東京大空襲と大きな災害に二度も遭遇し、手塚に関する直接の遺品は多く残っていませんが、彼が出版した雑誌や書籍を中心に活躍の舞台を写真とパネルで紹介します。また、人間関係図は福沢諭吉を中心とする慶応義塾の人脈や出版業・鉄道業で培った実業家としての人脈が一目で分かります。

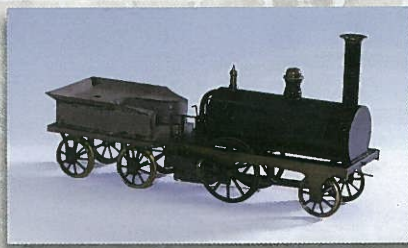


■「明治・大正・昭和・平成・令和」の時刻表

明治27年手塚が発行した時刻表から現在に至るまでの隠れたベストセラー「時刻表」の変遷を多数の時刻表の中から約150冊の資料で紹介します。また、代々の鉄道図、銀行が発行した時刻表や私鉄時刻表など珍しい資料を同時展示します。



■特別展示 蒸気車模型「興丸号(萩博物館所蔵)」



国内で現存が確認される幕末の蒸気車模型4台のうちの1台(レプリカ)。万延元年(1860)長州藩の科学者中嶋治平が長崎で蒸気車模型を購入し、藩主毛利敬親へ献上、翌年萩城内の馬場で実際に走らせ、藩主の公覧に供したという。後に藩主の孫興丸(毛利元昭)から、その守役近藤政信に下賜されたと伝えられ後年「興丸号」と称されるようになった。1850年代の蒸気車模型は西欧諸国でも現存数が少ないといわれ、科学技術史上貴重な資料を展示します。

■その他「鉄道写真展」

故山岡保治氏は長い間SLの機関士として勤めるかたわらSLを撮り続けた写真家である。「機関士が見た鉄道写真集」の一部を展示します。

■アクセスマップ

